



畜産研通信

平成24年度第2号

岐阜県畜産研究所の情報発信誌

○ 畜産研究所「ふれあい報告会」の開催について

毎年開催している「ふれあい報告会」を、平成24年11月20日（火）可茂総合庁舎大会議室で開催します。

飛騨牛・酪農・養豚・養鶏の各研究部の研究成果を報告させていただきとともに、午後の講演会においては、川島東京大学准教授をお招きして講演をしていただく予定です。

川島准教授は、ご専門の開発経済学、環境経済学を駆使し、開発途上国における農業・食料問題と開発協力事例をシステム論的視点で分析することにより、地球的な資源・環境制約下における世界の食料需給予測及び開発途上国の開発戦略と開発協力の在り方を研究されています。また、本年6月14日に農林水産省講堂で開催された家畜改良推進事業の行政レビューの行政刷新会議外部有識者として出席され、今後のアジア地域の貿易上、家畜改良分野が大きく可能性を秘めているとの見方を示されています。この会議の中で、日本が国土面積の狭いオランダ型農業を目指すことを提言されています。

岐阜県の今後の家畜改良のための視点を養うためにも、有意義な講演であると考えていますので、皆さんの参加をお待ちしています。

◇ 川島博之（かわしま ひろゆき）先生の紹介

◆ 経歴

昭和58年	3月	東京大学	工学系大学院	化学工学科	博士課程修了（東京大学）
	4月	東京大学	生産技術研究所	助手	
平成	元年10月	農林水産省	農業環境技術研究所	主任研究官	
平成	10年12月	東京大学大学院	農学生命科学研究科	助教授	
現在		東京大学大学院	農学生命科学研究科	准教授	

◆ 受賞

昭和63年	3月	日本水環境学会論文賞（広瀬賞受賞）	受賞
平成	9年11月	システム農学会論文賞	受賞
平成	10年	9月	Taylor & Francis and The Remote Sensing Society's Best Letter Award

参考：産学官連携ジャーナルプロフィール

○ 国産赤玉高品質鶏の経済性検定について

養鶏研究部

国内鶏卵市場では、消費者のニーズの多様化に対応し差別化を図るため、赤玉鶏の飼育が増加しています。当部では産官の連携により多様なニーズに対応した赤玉鶏の開発を効率的に行っています。

昨年5月孵化の国産赤玉鶏を市販外国銘柄鶏と比較し、産卵性、内部および外部卵質を重点的に経済性調査を実施しました。今年8月初旬に検定が終了し、国産鶏が外国鶏と同等以上の結果を得ています。詳細は、今年度の研究報告に掲載予定です。

○ 卵用奥美濃古地鶏の譲渡時に飼養衛生管理研修会 養鶏研究部

天然記念物の岐阜地鶏を素材に開発した卵用奥美濃古地鶏の譲渡を7月18日に行い、多数の皆様にご来部いただきました。譲渡の前に研修室で、飼養衛生管理研修会を開き、卵用奥美濃古地鶏の特徴や飼育管理方法の説明をしました。

卵用奥美濃古地鶏は、淡い茶色の小振りの卵を産みます。卵重に対する卵黄の比率が高く、通常の市販卵の1.3倍ありますので、卵かけご飯に最適です。アミノ酸組成でもグルタミン酸が市販卵より高い傾向があります。



検定終了直後の国産赤玉鶏



飼養衛生管理研修会

○ 種豚の衛生プログラムの変更について 養豚研究部

養豚研究部では、より安全で健康な種豚及び人工授精用精液の供給をめざして、今年度から子豚及び種豚のワクチネーション及び投薬プログラムを変更しました。

今後も、農家が利用しやすい種豚の生産をめざして衛生プログラムの見直しを行いますので、関係者の皆様のご意見をお待ちします。

◇ 8月20日現在のワクチネーションプログラム

- ◆子豚
 - 1日齢 コクシジウム駆虫薬（経口）、鉄剤、OTC（注射）
 - 21日齢 サーコウイルス不活化ワクチン
マイコプラズマ不活化ワクチン
 - 40日・70日齢 AR・BP・豚丹毒混合不活化ワクチン
- ◆繁殖母豚
 - 分娩1カ月前（初産豚は分娩2カ月前にも基礎注射）
 - AR・BP・豚丹毒不活化ワクチン
 - サーコウイルス不活化ワクチン
 - 駆虫薬（イベルメクチン製剤・注射）
- ◆種雄豚、繁殖母豚、譲渡用豚（7～9月）
 - 日本脳炎・豚パルボ混合生ワクチン



アイリスナガラ♂（系統造成時）

●平成24年度種豚及び人工授精用精液譲渡価格（税込み）

種豚	105kg雄1頭：61,000円	105kg雌1頭：53,000円
人工授精用精液	1ドース：1,100円（送料別）	

人工授精用精液は、毎週、月曜日と金曜日に採取・発送します。

（年末年始・祝祭日も対応します。）

○ 第10回全国和牛能力共進会 第1区（若雄）出品牛決定

飛驒牛研究部

本年10月25日～29日に長崎県で開催される5年に1度の和牛の品評会、第10回全国和牛能力共進会第1区（若雄）の出品牛に当研究所所有の「若白清（父：白清85の3）」が出品牛選考委員により決定されました。現在、出品に向けて毎日調教訓練や手入れを実施しています。

「白清85の3」の後継牛として生産された本牛は、特に肉質面で能力の高い基礎雌牛を母に持ち、発育、資質並びに尻等の体型が優れており、産肉性はもとより種牛性も兼ね備えた種雄牛として「白清85の3」に並ぶ肉質と「白清85の3」を上回る枝肉重量が期待されます。

今後は、現場後代検定調査牛取得のために先行交配を来年1月から2ヶ月間実施し、平成27年度に現場後代検定の成績が判明する予定です。



若白清（父：白清85の3）

○ 第63回岐阜県学校農業クラブ連盟家畜審査競技会が開催される

酪農研究部

岐阜県学校農業クラブ連盟主催、第63回家畜審査競技会乳牛の部が平成24年7月9日に当部を会場に開催されました。この競技会は、農業高校の学校農業クラブ活動で得た家畜審査技術の成果を発表し、生徒相互の技術を高め合い職業的な能力を養うことを目的に毎年開催されています。

梅雨の晴れ間の下、競技会は岐阜県下4農業高校から16名の選手が、経産牛と育成牛それぞれ4頭を乳用強健性や体型などの良否について、日頃のクラブ活動の成果を競いました。審査終了後には、当部の吉村畜産技術指導員が審査委員長として審査講評、乳牛の体型審査指導が行われました。

競技会の結果、最優秀賞には加茂農林高校3年生間嶋美乃さんが選ばれました。また、優秀賞には岐阜農林高校3年生樋口朝子さん、飛驒高山高校1年生洞口大樹さん、大垣養老高校3年生大江忍さん、同3年生大橋美咲さんが選ばれました。



家畜審査競技会

畜産研究所ホームページ <http://www.cc.rd.pref.gifu.jp/beef/>

- 飛驒牛研究部 506-0101 高山市清見町牧ヶ洞 4393-1
Tel 0577-68-2226 Fax 0577-68-2227 Email box@beef.rd.pref.gifu.jp
- 酪農研究部 509-7601 恵那市山岡町久保原
Tel 0573-56-2769 Fax 0573-56-2974 Email box@dairy.rd.pref.gifu.jp
- 養豚研究部 505-0037 美濃加茂市前平町 3-8
Tel 0574-25-2185 Fax 0574-28-4132 Email box@swine.rd.pref.gifu.jp
- 養鶏研究部 501-3924 関市迫間 2672-1
Tel 0575-22-3165 Fax 0575-22-3164 Email box@poultry.rd.pref.gifu.jp